

FXは8割が失敗し、全財産を失って退場していく世界です。その大半が「コツコツドカン」というものです。

つまり、コツコツと資産を増やしても、1回の大失敗ですべてを失ってしまうのです。「適切なポジションサイズ」と「きちんとした資金管理（損切り）をする」ということが重要なのです。

FX 外国為替証拠金取引 Foreign eXchange

3つのキーワード

「必要証拠金」「有効証拠金」「証拠金維持率」

- ・必要証拠金 = 為替レート×1ロット（例：1万通貨）×4%

ポジションを取るために最低限必要となる額。

- ・有効証拠金

含み益、含み損を計算した「実際に取引に使える」金額。

- ・証拠金維持率 = 有効証拠金 / 必要証拠金

一定の数値w下回ると、“強制ロスカット”が発動。

たとえば2015年1月に起こった「スイスフラン・ショック」。
スイスの中央銀行であるスイス国立銀行が、2011年から続けてきた「スイスフラン高を阻止するために無制限介入をする」という為替方針を突然撤回しました。これにより、スイスフラン/円が115円台から162円台まで47円も暴騰するなど、スイスフランは大きく変動しました。

英ポンドも2016年10月7日に突然急落しました。英ポンドは2016年6月にも急落しましたが、そのときは、「イギリスのEU離脱が決まった」というきちんとした原因があつての急落でした。しかし10月の急落は原因がよくわかっていません。**原因もわからないのに、激しい値動きをする通貨を、初心者がトレードすることはお勧めできません。**

そう考えると、流通量が多く、政治情勢も比較的安定している「米ドル、ユーロ、日本円の3通貨での取引がベスト」といえます。

「シグナル配信」などと呼ばれ、トレードするタイミングを教えてくれたりします。そのようなサービスを提供するには、「投資助言」と呼ばれる金融庁の許可を取る必要があります。また、そういった会社の代表は証券会社や銀行でトレーダーを経験したことのある人が務めていたりします。

「金融庁の許可まで取って専門家がアドバイスしているのなら、当たるはず」と思いますよね。ところが、実際にそれらのサービスを利

用して、トレードをしてみるとわかりますが、**当たりません**。

「FXではトレンドを見て、その流れに沿って取引をすることが利益をあげる最善の策」

・・・

「この3日間下げたから、そろそろ反転するだろう」と根拠のない希望を抱いて買った途端、さらに勢いよく大暴落する、ということはよくあります。

FX取引で私は、ファンダメ

ンタルズ分析をもとにトレードすることはしません。参考にするのはテクニカル分析のみです。正確に言えば、「ファンダメンタルズ分析とテクニカル分析を両方行い、**エントリーする際はテクニカル分析だけを参考にする**」という方法をとっています。その理由は、大きな事故を避け、勝率を上げるためです。世の中にはテクニカル分析だけで取引をする投資家もいます。そういう人は要人発言や経済指標の発表といったファンダメンタルズ要因も、すべてチャートに収斂されるという考え方を持っています。その意見もある意味で正しいと思います。

しかし、要人発言や経済指標の発表などのトピックスが出たときには、**極端に値動きが荒くなり、テクニカル分析がまったく通用しなくなる**ことがよくあります。そのような「**混乱する相場にあえて入っていく必要はないので、私は積極的に休む**」ことにしています。

「“あたりまえのことを、何の感情も持たずにやる”それがトレードで勝つ秘訣」です。

・・・

平常心を保ち、ルールにのっとって

淡々と作業を繰り返すことで、最終的な目的である「稼ぐこと」が達成できるのです。

本書では、「一回のトレードで失ってもいい資金を、**総資金の2%に抑える**」ことをルールとして設定します。

私はかつて、元手資金を3カ月で4倍にしたことがありました。でもそこで調子に乗ってレバレッジの高い取引をして、失敗。それまで稼いだ分すべてを2日間で失いました。

理由は簡単。資金管理ができていなかったからです。

では毎回の損失を2%に抑えたとして、同じように5連敗した

らどうなるか計算してみましょう。

30万円の資金が、

1敗すると……29万4000円

2連敗すると……28万8120円

3連敗すると……28万2358円

4連敗すると……27万6711円

5連敗すると……27万1177円

5連敗しても27万円以上残っているので、「まだ立て直せる」と思いませんか？

複数通貨に分散してポジションを持つ際は、「損失額をポジションすべての合計で2%に設定する」必要があります。「5通貨なら、1通貨の損失額が0.4%ずつになるように、逆指値を設定する」ということです。

一方、為替には「動かなすぎる」というリスクもあります。たとえば2014年前半のドル／円相場は101円から103円の間を行ったり来たりするだけの非常に動きの悪い相場でした。もしドル／円しかトレードしていなかった場合、半年間、稼ぐチャンスがなかなか訪れないという状況でした。

「本当に強いトレーダーは、チャートから投資家心理を読み取ることが上手」

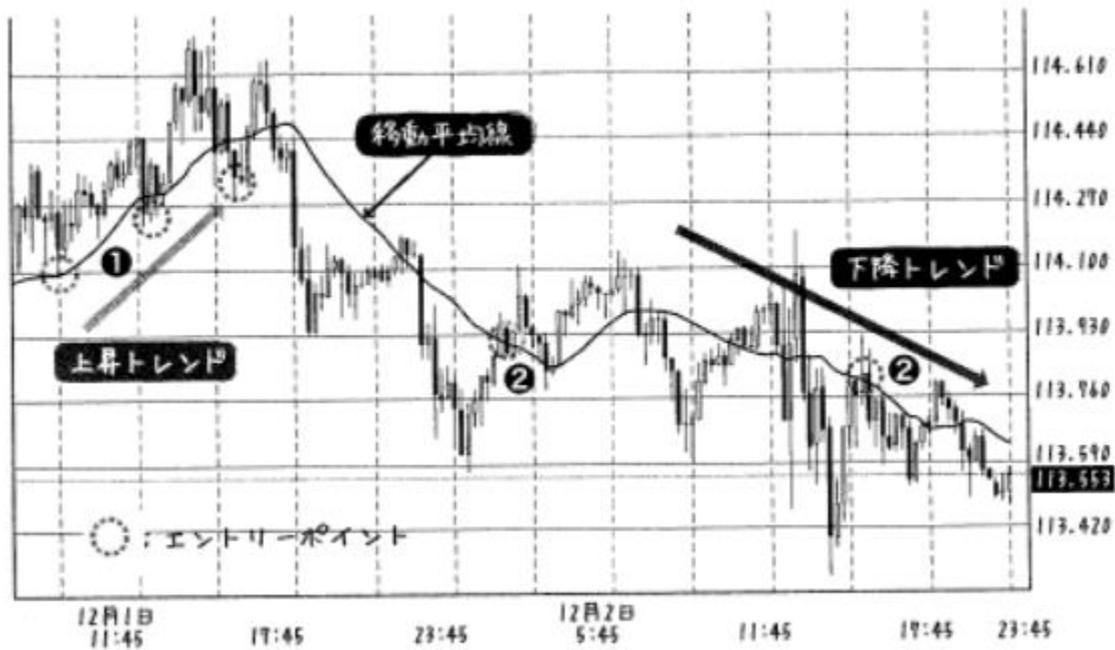
「日足・1時間足チャートでも15分足

チャートでも同じ方向のトレンドを描いていれば、勝ちやすい相場と判断」できます。反対に日足チャートは上昇トレンド、1時間足は下降トレンド、15分足チャートでは上昇トレンド、といった「ねじれ現象が起きているときは、慎重にエントリーポイントを探る」必要があります。

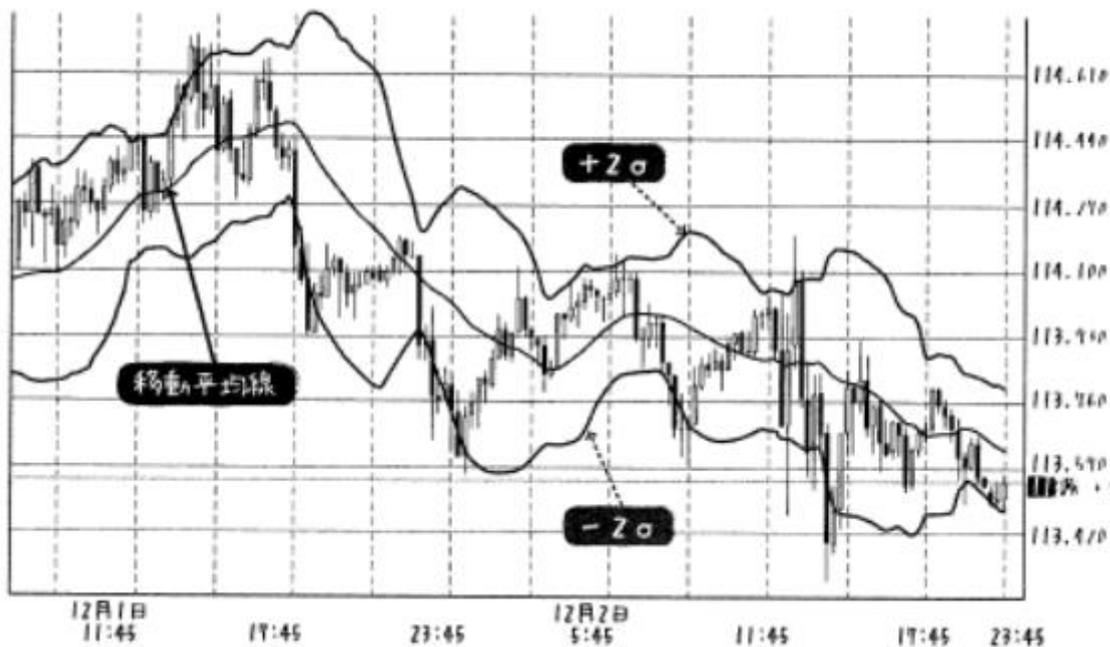
20MA 20本移動平均線

- ①上昇トレンドのときは、上下に波打ちながら上昇していくローソク足が、一時的に移動平均線まで下がってきたところで「買い」(=**押し目買い**)のエントリー
- ②下降トレンドのときは、上下に波打ちながら下降していくローソク足が、一時的に移動平均線まで上がってきたところで「売り」(=**戻り売り**)のエントリー

● 移動平均線（期間 20）とローソク足からエントリーポイントを見つける



● ボリンジャーバンド（期間 20）



人間の心理として、「利食いは早く、損切りは遅く」になってしまう傾向にあるからです。FX で儲けるためにはその反対で、「利食いは遅く、損切りは早く」することが鉄則です。

本書で紹介する「ダウ理論」にのっとった順張りのトレードを実践すれば勝率は約 70%になるはずなので、あとは損益率が 0・50 以上になるように、利益を伸ばすトレードを心がけましょう。

損益分岐点を超えるために必要な損益率（利益／損失）は？

勝率×損益率 > 1

- ・ 勝率 50% のトレードなら、損益率は 1・00
- ・ 勝率 60% のトレードなら、損益率は 0・67
- ・ 勝率 70% のトレードなら、損益率は 0・43
- ・ 勝率 80% のトレードなら、損益率は 0・25
- ・ 勝率 90% のトレードなら、損益率は 0・11

pips 為替レートの単位

米ドルでは、1pips=0.01 円

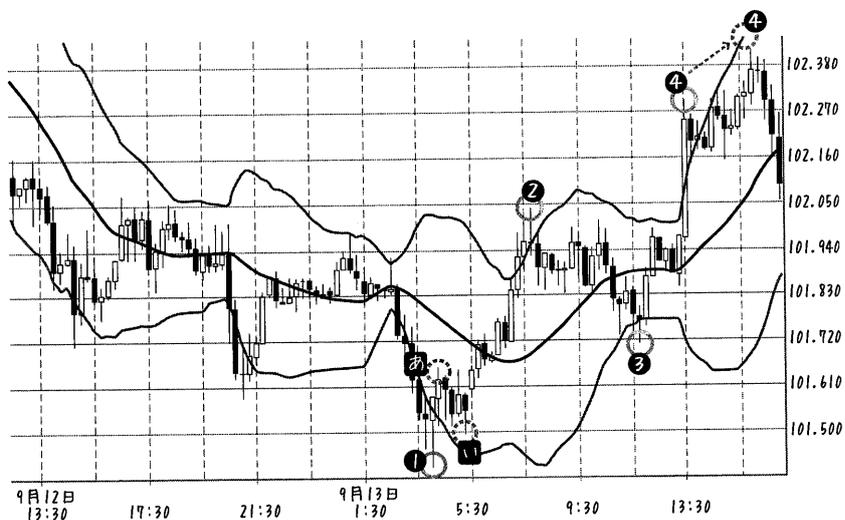
ユーロ／ドルでは、1pips=0.0001 ドル

したがってエントリーをする際には「毎回、損益率を計算し、最低でも 0・50 できれば 1・00 を目安に、注文していいかどうかを判断」してください。そして「0・50 を下回ったらエントリーしない」ということを守ってください。

◆ 上昇トレンドの判断

- A) 上昇トレンドと思われるチャートを見つけたら、まず、安値に①と番号を振る
- B) 次の安値と思われる③を探す
- C) ①と③の価格差を確認する（10pips 以上あるか）
- D) ①と③の間の最も高い価格②を高値と決める
- E) 次の高値にあたる④を探す（②と 10pips 以上価格差があること）
- F) 今回の上昇トレンドに入る前のチャートをさかのぼって確認する

● 上昇トレンドの判断のしかた

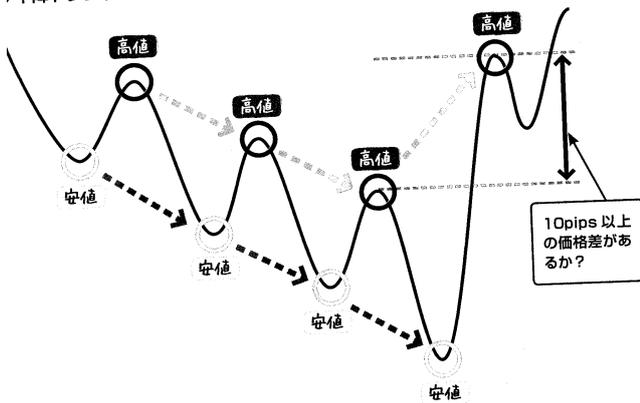


「高値（安値）といえるのは、移動平均線を超え

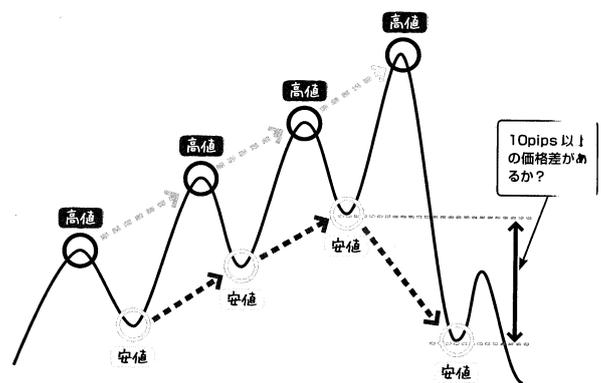
てから」です。為替価格というのは小刻みに上下しているの、細かく見れば、たくさんの山や谷があり、どれが高値や安値なのかは判別が付きにくいものです。そこで基本的なルールとして「安値」から次の「高値」に至るまでには必ず、「移動平均線を超える必要がある」と覚えてください。

F) 今回の上昇トレンドに入る前のチャートをさかのぼって確認する

↓ 下降トレンドから上昇トレンドにトレンド転換したかどうかの判断



● 上昇トレンドから下降トレンドにトレンド転換したかどうかの判断



「トレンドが出ていないときは休む」ということは、逆にいえば「トレンドが出ているときはひるまず、何度でもエントリーする」ということです。なぜならば、ダウ理論では「トレンドは転換するまで継続する」からです。これはダウ理論の基本法則のひとつでもあります。

ダウ理論におけるトレンドの構成は、第一（先行型投資家が買いはじめる）、第二（多くのトレーダーが買い価格急伸）、第三（相場を知らない初心者が買い、勝っている投資家は売り）の3段階があります。第3段階で転換点が訪れるまでは、トレンドは継続していることになります。

...

実際の「トレンド継続中の局面では、少し反落したところが「押し目」（上昇トレンド中に下降するポイント）であることが多く、買いのチャンスであると考えている人が多い」のです。上昇トレンドに乗り遅れていた人が押し目で買いを入れて、再び価格が上昇しはじめて、トレンドが継続することになります。

トレンドに乗ったにもかかわらず、反対方向に動いたら、損切りして終わるだけ。

◆上昇トレンドの終了。安値の切り上がりが終わってしまったら、買う理由はなくなるので、損切りして終了。

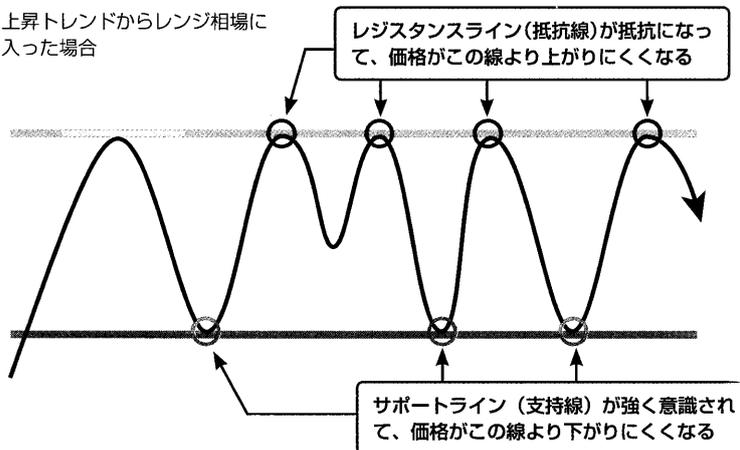
● 上昇トレンドの終了



◆レンジ相場

● レジスタンスラインとサポートライン

※ 上昇トレンドからレンジ相場に入った場合



本書では15分足のチャートを見て、①～④の4点(高値・安値の切り上げ・切り下げ)が現れて、トレンドが発生したときだけトレードをすることをお勧めしています。

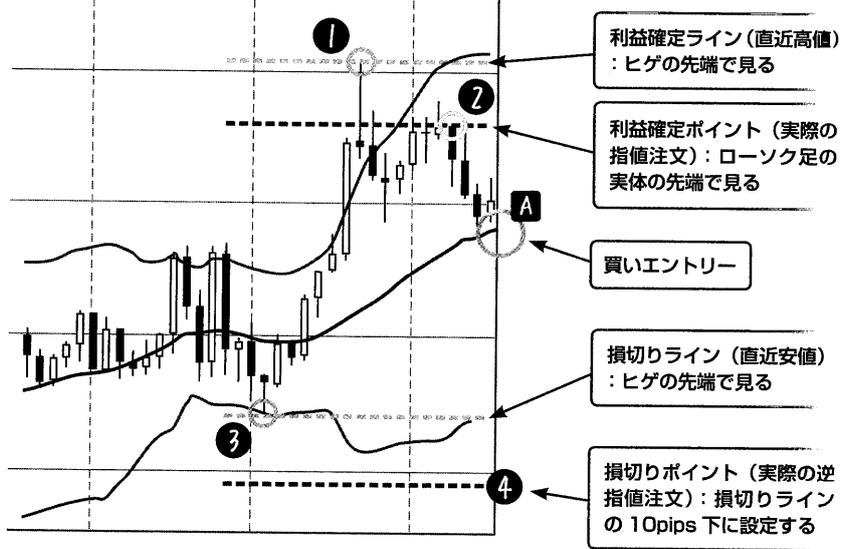
この定義に沿ってトレンドが発生し、「エントリーしていいタイミングが訪れる回数はおおむね一日24時間のうち1～5回程度」だと思ってください。チャートがもみあっている状態のときなどは、1日のうち1回もエントリーできないこともあります。

...

市場は24時間開いていますから、参加するタイミングはいくらでもあります。自信がない場合はエントリーしないでいいのです。「勝ちやすい相場にだけ参加することがFXで儲ける秘訣」です。

◆額の目安と決定方法（利益をとりやすく、ノイズの損切りを避ける）

●利益確定ライン・ポイントと損切りライン・ポイント



Aをどうやって決めるかは、書いていない。

相場の格言に「頭と尻尾はくれてやれ」というのがあります。利益を魚にたとえて、頭から尻尾まで全部食べようとよくぼるのではなく、頭と尻尾は他人にあげて、自分は胴体のおいしい部分だけもらっておけばいいというものです。

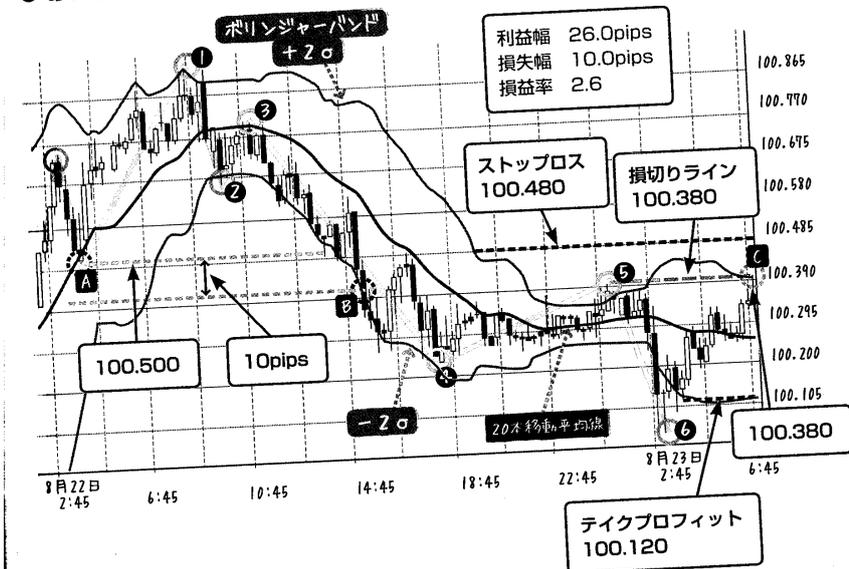
底値で買って高値で売るのが理想ですが、実際の相場ではそううまくはいきません。よくばりすぎれば、売買のタイミングを逃したり、逆に大きな損をします。それならば、安全のためのコストだと思って、底値と高値の部分は捨ててしまえばいいわけです。

◆おいしいトレード例

損益率 = $26.0\text{ pips} / 10.0\text{ pips} = 2.6$

損切りポイント（ストップロス）は、損切りライン A と同水準なので A がサポートライン（価格上昇抑止）

●おいしいトレード例をボリンジャーバンドでエントリーして検証してみる



下降トレンドと判断して、Cで売り。直前のチャートを見ると、上昇しているが、「戻り売り」の感覚を持たないと発注できない。

FXにかぎらず、投資で勝っている人は運がいい人ではありません。むしろ、「絶対に運任せにしたりはしない人」です。確率的に**勝率が高いといえる状況のときだけ、失ってもいい金額を投入して、手堅いトレードを実践**しています。そして、あるときは利益を出し、あるときは損切りをしながら、利益を積み重ねていきます。そこに、うれしいとか悲しいとか感じることはありません。むしろ、「淡々とした単純作業の繰り返し」です。でもその背景には必ず、「**トータルで勝てる**」という**確証**があります。これが常に勝っている人のメンタルです。